

Toraja Ex.03

~報告書~

2013/9/4~13

目次

- 1、 団長挨拶 P.3
- 2、 開催目的 P.4
- 3、 Ex.概要 P.5
- 4、 勉強会 P.8
- 5、 日別報告 P.30
- 6、 持物リスト P.40
- 7、 編集後記 P.43

1、 団長挨拶

皆さんは「死」という言葉にどのようなイメージを抱くだろうか。おそらくは、苦しみや恐怖など負の言葉を思い浮かべるだろう。トラジャ Ex.03 参加者 23 名は「死ぬために生きる」と言われるトラジャ族の生活を垣間見るため、マレーシアを経由し、インドネシアのスラウェシ島に降り立った。

マカッサルでのハサヌディン大学の大学生との 2 日間の交流。川のせせらぎを聞きながら星を眺めることが出来る静かな雰囲気のスダダン村での村人との交流。笑顔と元気に満ち溢れた小学校や孤児院での子供達との交流。様々なことを考えさせられたお葬式参列やお墓訪問。改めて「いただきます」という意味を痛感した豚の解体…。

どれも日本では、この Ex.に参加しなければ経験できないことばかりだった。

このトラジャ Ex.03 は、カンブリエクスペディションズの皆様、ハサヌディン大学の大学生やスダダン村の方々をはじめとした現地で関わってくださった全ての方々、そして、トラジャ Ex.を今後安定して開催できるようにとコンテンツを作り上げていった 03 のみんなが居なければ開催することは出来なかった。心より御礼申し上げる。

まだ 3 回目の開催故のハプニングや予定変更は多くあり、今後に向けての課題が残っている。しかし、トラジャ Ex.に待ち受けている未来は、決して暗いものではない。むしろ明るい未来が待っていると私は確信している。

今後もこのインドネシア・トラジャ Ex.が今後も続いていくことを願って。

2013 年 9 月 21 日 トラジャ Ex.03 団長 麓 磨紀子

2、開催目的

文責：麓 磨紀子

インドネシア・トラジャ Ex.03 の開催目的は、主に 2 つある。1 つ目は「自己を見つめ直すきっかけ作り」、2 つ目は「今後の基盤づくり」である。

「自己を見つめ直すきっかけ作り」について

日本人は時間に追われているという言葉をしばしば耳にする。しかし、Ex.という日常生活とは違う特別な時間の流れの中で、トラジャの「死ぬために生きる」という考え方にトラジャ Ex.を通して触れ、自己を見つめ直し、新たな自己を発見するきっかけにもなるようにする。

「今後への基盤づくり」について

インドネシア・トラジャ Ex.03 は、来年の 4 回目・それ以降のインドネシア・

トラジャ Ex.が安定して開催できるようにするためのきっかけとなるプログラムになることである。今後、トラジャ Ex.が Ex.のひとつとして続いていくプログラムとなり、自分とは異なる文化背景を持った人々との交流する機会を継続的に提供できるようにする。

この 2 つの目的を達成することをトラジャ Ex.03 の目標とする。この目的の達成により、今後のトラジャ Ex.の基盤を固め、安定して開催できるようになることで、I.S.A.の理念である「世界平和への貢献」を達成するための窓口をしての役割と果たす。

3、Ex.概要

参加者名簿

名前	支部	大学	学年	役職
多田拓晃	神戸	神戸大学	3	広報
鳥居翠	神戸	神戸女学院大学	4	勉強会
和田真由美	神戸	神戸女学院大学	4	報告書
神夏磯晴香	神戸	神戸女学院大学	3	文化紹介◎
塩崎柚佳	神戸	神戸女学院大学	3	報告書
北代雅人	神戸	甲南大学	4	勉強会◎
宮城奈苗	神戸	甲南大学	2	文化紹介
近藤優哉	神戸	甲南大学	2	副団長、海外保険・パスポート
奥出雄太	神戸	関西学院大学	3	報告書◎
田中啓太	神戸	関西学院大学	3	広報
倉岡歩美	神戸	関西学院大学	2	財務
田中楓梨	神戸	関西学院大学	1	勉強会
田中勇人	京都	同志社大学	3	チケット◎
上田里奈	京都	同志社大学	2	報告書
迫萌美	京都	同志社大学	2	チケット
北出あさ美	京都	同志社大学	1	報告書
ト部紋子	京都	京都教育大学	2	文化紹介
麓磨紀子	九州	北九州市立大学	3	団長、国際渉外
吉武実保	九州	北九州市立大学	3	薬係
登森知奈美	岡山	ノートルダム清心女子大学	2	文化紹介
西脇一樹	岡山	岡山大学	4	勉強会
石村祥	岡山	岡山大学	3	副団長
西村晃介	岡山	岡山大学	3	広報◎

◎は役職のリーダー

協力団体

- ・カンブン・エクスペディションズ
- ・ハサヌディン大学日本語学科の皆様

プログラム日程

0 日目@マカッサル

(全員クアラルンプール経由だったため、LCC ターミナルのマクドナルド前で合流)

夜マカッサル着：スルタンハサヌディン国際空港まで、ガイドのマルセルさんとバルバラさんと運転手に迎えに来ていただく。

→夕食：インドネシア料理！ナシゴレン、ミーゴレン、オタオタ

→ホテルに移動：文化紹介等最終確認

*Grand wisata Hotel 泊

1 日目@マカッサル インドネシア・トラジャ Ex. スタート

9:00-15:30 日本語学科の大学生と交流

- ・マカッサルについてのレクチャー
- ・アイスブレイキングやゲーム
- ・グループごとにキャンパスツアー
- ・昼食は学食
- ・文化紹介(折り紙、こま、書道、輪投げなど)

→夕食：シーフード

*Grand Wisata Hotel 泊

2 日目@マカッサル

グループ観光：ソンバオブ博物館

→昼食：Coto Makassar

→グループ観光：ロッテルダム要塞/手工業センター

→夕日を見る@Losari Beach

*Grand Wisata Hotel 泊

3 日目 移動

マカッサル出発

→昼食@parepare（綺麗な海や山が望めるレストラン）

→休憩@Lakawang 丘

→サダン 村到着!!

- ・サダン村の人によるダンス
- ・文化紹介：心の友

*ホームステイ/トンコナン泊

4 日目 @タナトラジャ

孤児院訪問

→観光：Sangalla 村/Lemo 村

*ホームステイ/トンコナン泊

5 日目@タナトラジャ

Boli 市場見学

→お葬式見学

→トラジャコーヒー事務所訪問

→観光：Ketekesu 村/Londa 村

*ホームステイ/トンコナン泊

6 日目@タナトラジャ

小学校訪問

→観光：Palawa 村

*ホームステイ/トンコナン泊

7 日目 @タナトラジャ

フェアウエルの買い出し@Boli 市場

→豚の解体

→フェアウエルパーティー

*ホームステイ/トンコナン泊

8 日目 移動

タナトラジャ出発

→休憩@Lakawang 丘

→マカッサル到着

トラジャ Ex. 終了！！Grand Wisata Hotel に
て解散

4、勉強会

<タイムスケジュール>

-1日目(7月27日)-

12:45	阪急六甲駅改札前に集合→神戸青年学生センターへ移動
13:00～13:05	団長から開会の挨拶@会議室A
13:05～13:20	アイスブレイク
13:20～13:50	プレゼン①文化
14:00～14:30	プレゼン②宗教
14:40～15:40	文化紹介(体動かす組)からの説明と決めごと
15:40～16:00	休憩
16:00～17:00	アンケート結果の説明・資料配布・夜に行うディスの議題発表 資料を読んで自分なりの考えをまとめてもらう時間 (追加で話しあった方が良くと思う議題があれば行ってもらう)
17:00～20:00	お風呂&ご飯&自由
20:00～20:30	団長からの話(小学校・孤児院・大学について)
20:30～23:00	ディス(解決策・改善点を共有して結論を出す)
23:00～	Free time

-2日目-

09:00～09:15	前日フィードバック@会議室 A
09:15～09:45	プレゼン③経済
09:55～10:25	プレゼン④衣食住
10:35～11:05	役職からのお知らせ①(財務・副団長・チケット)
11:15～11:45	プレゼン⑤政治
11:45～13:00	お昼休憩
13:00～13:30	役職からのお知らせ②(残りの役職から)
13:40～14:40	文化紹介からの説明&決めごと
14:50～16:45	縁日でグループに分かれて何をするか話し合い
17:00	解散

次のページより、発表パワーポイント

1. 文化、2.宗教、3.経済、4.衣食住、5.政治

タナ・トラジャの文化

トンコナン



木彫り細工



人生最大のイベント・葬式



ロンダ



人形・レモ





トラジャ族の文化

木彫り彫刻について
葬送儀式について

トラジャ族の文化

- トンコナン
- 木彫り彫刻
- 葬送儀式
- 舞踏 音楽
- 今回は木彫り彫刻と葬送儀式についてみてみよう^^

木彫り彫刻とは？

- トラジャ語は音声言語であり、文字を持たない。
→どのようにして社会的 政治的概念を伝達??

パッスラ

パッスラと呼ばれる木彫り彫刻によって それらを伝達している。

トラジャ族の文化の象徴とも言われている！
固有の名称を持つ木彫りで、その主題は共通して何らかの美德を象徴する動物や植物である^^
幾何学的な模様を使い表している。

パッスラの模様



バデトン(水牛)

富を象徴している。
家族がたくさんの水牛を持てるよう願いを込めている。

パッスラの模様



太陽と光線

結び目と箱をモチーフとし、
物品が箱の中で安全に保管されているように家族が子孫代々幸福と調和にあふれた生活が送れることを願っている。

パッスラがうまれた背景

- トラジャでは後に公用語になったインドネシア語のほかに トラジャ語をもつが、これは音声言語であった。

しかし、社会的 政治的 観念を伝達しなければならない
><
それを実現するために考えられたもので、

トラジャ族の規則正しさや民族数学分野での研究の結果、自然の中から見出した(パッスラの模様は動物や植物が多い)幾何学模様を言語の代わりとして使用した。

トラジャ族の文化

木彫り彫刻について
葬送儀式について

トラジャ族の文化

- トンコナン
- 木彫り彫刻
- 葬送儀式
- 舞踏 音楽
- 今回は木彫り彫刻と葬送儀式についてみてみよう^^

木彫り彫刻とは？

- トラジャ語は音声言語であり、文字を持たない。
→どのようにして社会的 政治的概念を伝達??

パッスラ

パッスラと呼ばれる木彫り彫刻によって それらを伝達している。

トラジャ族の文化の象徴とも言われている！

固有の名称を持つ木彫りで、その主題は共通して何らかの美德を象徴する動物や植物である^^
幾何学的な模様を使い表している。

パッスラの模様



パデトン(水牛)

富を象徴している。
家族がたくさんの水牛を持てるよう願いを込めている。

パッスラの模様



太陽と光線

結び目と箱をモチーフとし、物品が箱の中で安全に保管されているように家族が子孫代々幸福と調和にあふれた生活が送れることを願っている。

パッスラがうまれた背景

- トラジャでは後に公用語になったインドネシア語のほかに トラジャ語をもつが、これは音声言語であった。

しかし、社会的 政治的 観念を伝達しなければならない
><

それを実現するために考えられたもので、

トラジャ族の規則正しさや民族数学分野での研究の結果、自然の中から見出した(パッスラの模様は動物や植物が多い)幾何学模様を言語の代わりとして使用した。



参院多利者の伝説在説

宗教について

石村祥・倉岡歩美・宮城奈苗・北出あさ美

日本人の宗教

- ・日本の宗教のルーツ
- ・日本人の死生観
- ・現代日本の宗教観

日本の宗教のルーツ

- ・神道とは
- ・god と kami の違い
- ・神仏習合にみる神道の考え方



日本人の死生観

- ・神道の死生観
- ・仏教と先祖崇拝

現代日本の宗教観

- ・ 信仰のない宗教
- ・ なお根強く影響する神道

インドネシアの宗教

宗教の現在

- イスラム教→約 87%
- キリスト教プロテスタント→約 7%
- キリスト教カトリック→約 3%
- ヒンズー教→約 2%
- 仏教→約 1%

☆国教に関する法律や制定がなく、いわゆるイスラム教国家ではない。

イスラム教

イスラム教は、キリスト教、仏教に並ぶ世界3大宗教の1つ。

イスラム教徒には、「六信五行」という義務がある。

「六信」とは信じなければならない六つのこと。

「神」「天使」「啓典」「預言者」「来世」「天命」

「五行」は、行わなければならない五つのこと。

「信仰告白」「礼拝」「断食」「喜捨」「巡礼」

五行について

1. 信仰の告白・・・「アラーの他に神なく、マホメットはその使徒である」を唱える。
2. 礼拝・・・1日5回（夜明け前・正午・午後・日没・夜半）メッカに向かって礼拝。金曜正午にモスクで礼拝。
3. 喜捨・・・富める人は、貧しい人に施しをする。
4. ラマダンの断食・・・この間、日の出ている内は飲食を絶たなければならない。（日が沈んだらOK）
5. メッカ巡礼・・・イスラム暦12月7日にメッカに巡礼に行く。

その他、イスラム教徒の義務



- ・ 左手は不浄の手といわれ、食事、物の受け渡し、握手に使わない。
- ・ 人前で肌を露出しない。
- ・ お酒は禁止。
- ・ 豚肉は食べてはいけない等

キリスト教プロテスタント

スウェラシ島北部や、イリアン・ジャヤ（ニューギニア島の西半分）では過半数がキリスト教プロテスタントで、イスラム教は少数派。

オランダの植民地支配の影響から、この地方にプロテスタントの浸透が広まり根付いていると考えられる。



キリスト教カトリック

スンバ島、フローレス島からティモール島にかけての島々では過半数がキリスト教カトリックで、イスラム教は少数派となっています。

ポルトガルの植民地支配の影響からこの地方にカトリックの信仰が根付いていると考えられる。



ヒンズー教

バリ島では人口の93%がヒンズー教で、イスラム教は少数派となっている。

ヒンズー教徒が大多数を占めるバリ島では、長い歴史を通じてヒンズー教を生活の中に融合させており、カースト制度も緩やかに取り入れられ、ジャワ島が急速にイスラム化していく中で、マジャパイトの貴族や学者、踊り子達がバリに移り住んだと言われている。従ってバリはジャワ古来の文化をもその中に抱え込んでいる地域であるといえる。

仏教

ヒンズー教と仏教は、インドから伝来。しかしヒンズー教では身分による差別、カースト制を認めるのに対し、仏教では人は全て平等であると説く。

インドネシアの近代仏教は、19世紀前半に中国やスリランカの僧達により布教が行われた結果、中華系のインドネシア人を中心に広まっていった。

インドネシアの近代仏教は、「仏教復興」ともいわれている。

トラジャ族独特の
伝統的宗教

アルク (Aluk to dolo)

アルク神話

上界

大地

下位
世界

多神教 アニミズム

- 現世の安寧と繁栄は神々のおかげ
- 至る所に神々が存在
- 儀礼を怠ったり、誤った行為をなすと現世に災いをもたらされる
- 水牛・豚・鶏は神々へのお供え

霊魂 ポンボ

- 肉体だけが死に、霊魂は『この世』から『あの世』へ移行
- 霊魂が円滑に『あの世』へ移行するため送葬儀礼を果たさなければならない

キリスト教

- 1913年 オランダ人宣教師が布教開始
- 1980年には76%キリスト教徒
(伝統的宗教18% イスラム教6%)
- 現在はほとんどがキリスト教徒

- しかし、キリスト教がトラジャの土着文化を変えたとは言いがたい
- キリスト教は土着文化を包摂しつつ存在していると言える。

宗教上注意すること！

* ふれあい編

- ・宗教への軽々しい発言には注意！
→様々な宗教を信仰する国。宗教へは慎重に。
- ・異性との挨拶に注意！
→自分からは握手やハグは求めない。
- ・左手に注意！
→左手は不浄の手。握手にはNG。
- ・こどもたちの頭をむやみに撫でない！
→頭は神聖な部分。むやみに触らないように

* 服装編

- ・ノースリーブや身体のラインが出る服装には注意！
→肌を見せるのはNG。男性に敬意を払ってもらえなくなる。
- ・モスクなど宗教施設では靴や帽子を脱ぐ！
→神聖な場所では清い恰好で。



トラジャEX03勉強会

2013.7.27～7.28

～経済～

担当者: 田中勇人、迫萌美、田中啓太

流れ

1. インドネシア経済の概要
2. インドネシアの観光業
3. 農業、石炭、石油、天然ガス等

<インドネシア経済の現状>

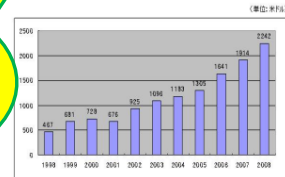
- 1997年 アジア通貨危機
 - ⇒ 経済は大きな打撃を受ける
 - ⇒ 政治・社会構造の変革を余儀なくされた
- ここ数年 高い経済成長を維持

Why!?

Because!!!

2億人越えという人口
↓
国内需要に支えられた
巨大な市場

図1-インドネシアの国民1人当たりのGDPの推移



<インドネシアの通貨>

➢ 通貨単位: Rp (ルピア)

⇒ 1円 = 約100ルピア

	インドネシア [ルピア]	日本 [円]
硬貨	25	0.25
	50	0.50
	100	1.00
	200	2.00
	500	5.00
	1,000	10.00
紙幣	1,000	10.00
	5,000	50.00
	10,000	100.00
	20,000	200.00
	50,000	500.00
	100,000	1,000.00



最小通貨がRp.25であるため、お釣りの端数は
キャンディやガムが
代用されることもあるそうです
(笑)

<日・インドネシア間>

➢ 日本は、最大の貿易相手国!!!

From Japan; 資源, エビ, 繊維 etc

From Indonesia; 電気機器, 機械, 車 etc

※インドネシアは、エネルギー供給国

➢ 日本は、最大のODA

(政府開発援助) 供与国!!!



～経済的に妥当

政治的に難あり～

- ユドヨノ大統領が、ガソリン価格引き上げに合意
 - ⇒ すべての人に苦痛を与える
 - ⇒ 消費者物価上昇率の押し上げ
 - ⇒ 燃料の消費量急増も原因!?
- GDP6%上昇をKeep!!! (ギリギリ)
 - ⇒ 貿易赤字とルピア安の懸念を招く

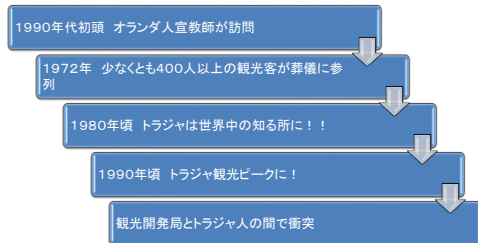


インドネシアのユドヨノ大統領 (AFPBB News)

＼トラジャ地方の観光業／

長年の経済発展を経て、今が正念場!!!

トラジャにおける観光業の歴史



トラジャにとって観光業は不可欠なものへ!!

トラジャ観光の目玉

1つめは……葬儀の見物



2つめは……集落景観



3つめは……雄大な自然



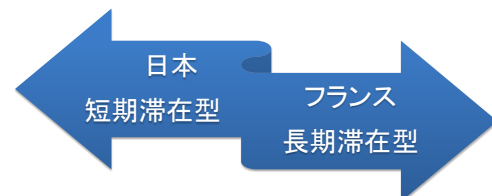
なぜトラジャ観光は
欧米人に受けるのか?

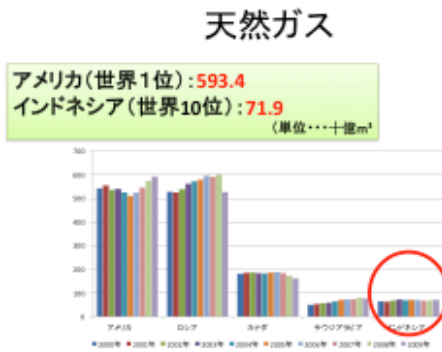
観光客数を見てみると……

フランス人は日本人の**約20倍!!**

原因は……

観光に求めるものの違い!!





衣食住

メンバー
多田・奥出・塩崎・ト部

インドネシアには300を超える民族が生活をしているので、それぞれの民族によって衣装が若干異なる!!

衣

そもそも衣類の目的とは？

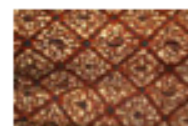
夏は直射日光から、冬は寒風から、
つまり寒暖風雨から身を守るもの

↓
衣類の機能の目的がこれだけなら
布だけでは十分なはず

しかし、

インドネシアでは一枚の布に 手間と時間をかけて染織を行う

パティック 𐄂
手書きのものでは**数か月**



𐄂 イカット
複織のものでは**数年**

Q どうして手間暇をかけて布を染織するのか？

もっと精神的なものが 含まれている

大きな災害、病魔のような
悪霊を身から守るために着る

↓
つまり、**お守り**であり、**守護神**
としての役割をもっている

サロンについて

○インドネシアやマレー半島の
男女が平常着として使う。

○熱帯の気候で適した
機能的な涼しい服装

○ロングスカート状の腰布



クバヤについて

○インドネシア女性の民族衣装

○日本でいう着物にあたる正装
→お祝いの席などで大抵身につけるので、女性は必ず1着は持っているであろう衣装



ヒジャブについて

○インドネシアの一般女性が来ている民族衣装

○スカーフのような布で頭髪を隠すもの
→イスラム教の女性は顔と手以外を隠し、近親者以外には目立たないようにしなければならない





④ ヒジャブの巻き方

トラジャ族の婚礼衣装



神の加護を
象徴する
黄色の衣装

祝祭儀礼の女性の衣装

カンダウレというビーズ飾りは
富や豊穡（ほうじょう）や子孫繁栄
を象徴している



葬式儀礼の女性の衣装

神への奉納品である
シリ（びんろう）を
入れるバッグを肩
から掛けています。



他にも



普段の格好



①



②

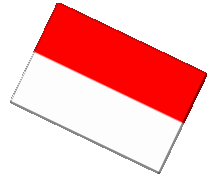


③



②

インドネシアの 食文化



ナシゴレン nasi goreng



ナ シ ゴレン

ご飯 + 炒める

焼き飯



ミ ゴレン

そば + 炒める

焼きそば

ミ クア

そば + 汁

汁そば



アヤムゴレン

鶏のから揚げ

身が締まっている

カエル
の
から揚げ
ケチャップ



カンクン・トウミス

最もポピュラー

プルクデル

パン粉の衣はつけない



サンバル

インドネシア料理に
必須
辛味香辛料



インドネシア料理の特徴

- 米がなければご飯ではない
食事は山盛りのご飯 パンや麺は間食
- サンバルは必須！
- 魚介類をよく食べる
味が濃く、揚げ物が多い
- お肉はごちそう！
特に牛 豚肉は食べない
- 芋類の種類が豊富
カリカリ揚げておやつに
- 屋台が充実



インドネシアの屋台事情

- ピー 笛の音 鶏肉入りお粥
- トウクトウク
小さな木のドラをたたく音 団子
- チェチェ
夜の空気を鋭くさくような音
串焼き



トラジャ(スラウェシ島)料理の特徴

- 辛い！
赤唐辛子、青唐辛子をふんだんに
- シーフードが最もうまい！
- コーヒーが有名！



テーブルマナー



- 右手でスプーン、左手でフォーク
- お皿は持ち上げない
- 食事中は甘い飲み物
- 手で食べることもある
- 食事前後に手洗い



インドネシアと日本の住居

～双方の住宅事情についての考察～

関西学院大学3年生 奥出 雄太

はじめに

✦ 目的

- 1、トラジャExに参加する前にインドネシアの住宅事情を把握しておく
- 2、日本の住宅事情も十分に理解しておく
- 3、1と2を比較して住宅事情の違いを把握する

インドネシアの住宅



インドネシアの住宅



インドネシアの住宅

✦ 一軒家

- ・各家がしっかりとセキュリティを施している
- ・外国人が住む住宅街であれば、数ブロック毎にセキュリティがいる。
- ・他方、インドネシア人が多く住む住宅街であれば、盗難等の犯罪対策が必要になる。



インドネシアの住宅

✦ タウンハウス

- ・広い敷地内で複数人のセキュリティがいて、出入りを監視している。
- ・セキュリティはアパートのように作られているが作りは一軒家。
- ・高級物件に該当し、家賃はUS\$1,000- (= ¥ 100,000-) を余裕で超える



インドネシアの住宅

✦ トンコナン

- ・トラジャ族の伝統住居
- ・トラジャにある全てのトンコナンは、北向きに建てられている。
- ・現在、トンコナンに住んでいる人は少数であり、大多数はトタン屋根の木造住宅に居を構えている。



インドネシアで住居を見つけるには

- ✦ 飲料水
- ✦ 電気
- ✦ 利便性
- ✦ 隣組
- ✦ トイレ
- ✦ 防犯

日本の住宅



日本の住宅



両者比較

インドネシア



日本



習慣・マナー

スカルノ体制下でのインドネシア

麓 磨紀子

もくじ

- スカルノとは誰か？
- スカルノ体制前のインドネシアは？
- スカルノ体制とは？

Who is スカルノ？

- 蘭植民地時代から独立運動を続けた政治家
- インドネシア初代大統領
- 建国の父とあがめられる
→紙幣に肖像が使われる



スカルノ体制前のインドネシアは？

- 16世紀の香辛料貿易の展開により、オランダから支配される→厳しい植民地支配により、独立運動が始まる
- 独立運動が最も激しかった時は、1927年のスカルノによるインドネシア国民党の結成と、1928年の「青年の誓い」の時。
- 「青年の誓い」
唯一の祖国・インドネシア、唯一の民族・インドネシア民族、唯一の言語・インドネシア語が高らかに宣言された。

スカルノ体制前のインドネシアは？

- 1942年に日本軍がオランダ植民地政府を打破。日本による植民地支配の始まり
→寛容な植民地支配
- 戦局の悪化により、インドネシアの独立が推し進められる
→スカルノは8/17に独立宣言を出す
→オランダが反発し、独立戦争が始まる
- 1949年12月のハーグ円卓会議で、インドネシアはオランダから無条件で独立承認

スカルノ体制とは？

- 憲法(1950年憲法)を制定し、議会制民主主義の導入を試みる
→民族的にも宗教的にもイデオロギー的にも多様なインドネシアで、各派の利害を調整することは難しく、議会制は機能しなかった
- 1945年憲法への復帰を宣言。ほぼ同時期に国会を解散し、以後の議員を任命制とし、政党の活動も大きく制限した
→「指導される民主主義」体制の発足
→中部・北・南スマトラ、南カリマンタン・北スラウェシのように国内は分裂

スカルノ体制の転覆

- 台頭しつつあった国軍を牽制するためにインドネシア共産党に接近し、国政における自身の主導権を維持しようとした。
→「ナサコム(NASAKOM)」
「ナショナリズム(Nasionalisme)、宗教(Agama)、共産主義(Komunisme)」の各勢力が一致団結して国難に対処しようというスローガン
- スカルノの「指導される民主主義」は、1965年の9月30日事件によって終結
→スカルノからスハルトへの権力委譲と、インドネシア共産党の崩壊

インドネシア 政治問題

西村晃介

世界から評価されるインドネシア

- ▶ 目覚ましい経済発展により、OPEC、ASEAN会議でホスト国を務める。
- ▶ 豊富な労働力や資源国としてアジア諸国の中でも目覚ましい成長。
- ▶ イスラム武力集団の鎮圧や新たな治安法、国家対テロ局の設置等治安面の問題解決

政治の腐敗

- ▶ 道路、電力供給等インフラ面の問題、地域間の生活水準に格差。
- ▶ 政府の補助金がおりにくいため、民間にこうした負担がのしかかっている。
- ▶ 海外企業の土地利用規制や地方への権利委譲によって生じるコソウト高

雇用の捻出

- ▶ 現在人口の5%が30歳以下の若者。
 - ・高い消費性向と豊富な労働力
 - ・資本集約型産業における雇用捻出の難しさ
- ▶ 失業率6.8%、貧困ライン以下の国民が12.5%
非正規雇用65%以上
- ▶ 終身雇用制に近いものがあり、市場が非常に硬直的。

インドネシア 現在の政治

登森知奈美

現在の政治体制・内政

- ・共和制、大統領制
- ・最近の内政
- ・日本とインドネシアの政治関係

政治体制

共和制

共和制とは？

主権が国民にあり、直接または間接に選出された国家元首や代表者によって統治される政治形態。

→君主制でなくみんなの合議で物事を決める政治のスタイル

ちなみに日本は立憲君主制！

立憲君主制と共和制の違い

○共和制

→権力機構(政治を行う人)と認証機関(任命する人)が、
一体化されている

○立憲君主制

→権力機構と認証機関が分離

大統領制

現在は2009年の大統領選挙において再選した
スシロ・バンバン・ユドヨノ大統領

ユドヨノ政権は

- 1 国民福祉の向上
- 2 民主主義の確立
- 3 正義の実践

経済発展・天然資源の活用・人的資源の向上

2004年ユドヨノ政権発足後、

- ・治安対策
- ・汚職撲滅
- ・投資環境整備

インドネシアとの政治関係

- ・2006年11月、ユドヨノ大統領 来日
地域及び世界の平和と安定のために協力することで一致
- ・2011年6月、ユドヨノ大統領夫妻 来日
被災地である気仙沼市を慰問訪問
- ・2013年1月、安倍総理は就任後初の外国訪問において、
インドネシアを訪問。

→経済上の相互依存関係を背景に、
両国の友好関係は近年、一層緊密化

ありがとうございました

インドネシアの政治 ～スハルト政権下のオルバ体制～

報告者 吉武 実保

スハルト

○ ムハンマド・スハルト



○ スカルノ政権時から実権を握っていた
→ 陸軍大臣兼陸軍参謀総長

○ 1966年当時、インドネシアの経済は混乱を極めた
→ スハルトは、外国の支援を仰ぐために国際社会に復帰
するという外交上の大転換を行うことにした

○ 1966年にはIMFや世界銀行、国連に復帰し、マレーシア
対決の終結宣言を行なった

○ 1967年になると、経済の再建に着手
→ 外国投資法などを整備し、インフレ抑制、対外債務処
理など経済の再建に着手した

○ 同年行われた東京でインドネシア債権国会議
→ 日本がODAの再援助国となった

スハルト政権

○ 1968年 スハルトが正式に第二代インドネシア大統領
に就任

○ 新秩序体制を展開
→ 権力はスハルト大統領に集中することになり、その結果
インドネシアの統一が推進された
→ 新秩序を下支えたのは、国軍の物理的暴力とそれ
に対する人々の恐怖心だった。



きわめて安定した政治体制を築けた

○ 「開発の政治」
→ 経済発展を遂げることができた
→ 経済発展⇔政治的安定

「安定」と「開発」の政治が新秩序体制の基盤となった

オルバ体制

○ オルバ体制開始
→ インドネシア経済は発展を見せ、国外からの投資受
入に門戸を開いた

→ 多国籍企業が進出して石油や資源採掘などの操業を
開始し、新たな雇用が創出された

→ トラジャ村からも若年層を中心に、カリマンタンへ伐採
やニューギニア島へ石油の採掘、またスラウェシ島や
ジャワ島の都市部へ就職のために移り住む者が増え始
めた

インドネシア政治の特徴

- 国軍が権力を掌握

理由

- ・国軍は国内随一の集権的組織であること
- ・大統領や権力者に軍出身が多く、国軍との結び付きの強さ

- 身内ひいき

- 大統領の息子や、親族の企業が国家プロジェクトを優先的に請け負う

- 汚職の蔓延

- 政治家による贈収賄路事件

- 「多様性の中の統一」

- インドネシア語のほかジャワ語、スワンダ語、アチェ語など500以上のさまざまな言語が話されている

- イスラム、キリスト教、仏教、ヒンドゥー教などさまざまな宗教が信仰されている

インドネシアの形成

要因

- ・オランダの植民地支配下にあったこと
- ・同じ境遇や考え方を持つものとしての仲間意識であるインドネシアナショナリズムが生まれたこと

- ・議会制民主主義期

- 国をまとめる権力がないために、**多様性**が尊重されすぎた結果インドネシアを統一することができず、政治的にも経済的にも混乱した状態が続いた

- ・スカルノ政権下での民主主義期

- 多様性がもたらす不安定な状況を脱するために、**統一**と権力集中を図った

多様性の尊重と統一推進

ご清聴ありがとうございました

5、日別活動報告

9月4日(0日目)

【Schedule】

クアラルンプール空港マクド前集合→マカッサル着→マルセルさんたちと合流→ホテル着→夕食→文化紹介準備→就寝

ビフォアのシンガポールからクアラルンプールに前入り。身体的に疲れもあったが、トラジャメンバーに会えることとこれからのトラジャ Ex.03 にかなり興奮していた。集合場所のクアラルンプール空港に着き、ぞくぞくと着くメンバーにテンションも徐々に上がっていった。特に大きな問題なくみなが無事に到着し、いよいよトラジャ Ex.03 が始まっていくのだなと改めて実感した。ただ、自由に行動する人もいて、少し不安も覚えたが、みながしっかりと行動できる人たちだったので、自分は全力で楽しみ、現地のすべてを肌で感じてやろうと決意した。

なんだかんだで、無事にマカッサル空港着いた。そこには、このトラジャ期間中にガイドをしてくれるマルセルさんとバルバラさんが迎えにきてくれていた。二人とも日本語が上手で、気さくだったので、初めからすごく気軽に話すことができた。バスも想像していた以上に乗り心地がよく、快適に市内のホテルまで移動することができた。現地に着いてからの初めての食事。正直にいうと味にはあまり期待はしていなかったが、出てくる料理はどれもおいしく、初日にしてかなりの量を平らげた。現地特有のチリソースはあほほど辛く、悪ふざけをして普通ではない量を口にした者は悶え、汗を流していた。いじられつつあった僕もそのうちの一人だった。

ホテルに帰った後は、文化紹介の担当だった福笑いを、みんなで作成した。担当ではない人も手伝ってくれて、かなりクオリティの高いものができたと同時にあまり話したことのなかった人とも話す機会ができて、かなり満足だった。どんどんみんなのことを知っていく感じがとても好きだった。

ホテルの部屋割りはしろさん(北代さん)と同じだった。部屋の前に小さな池があったこともあり、部屋にはかなりの量の蚊がおり、二人はすぐに戦闘体制に入り、蚊をせん滅することにした。蚊の情報はお互いに共有しつつ1時間ほどかけて、お互いに5,6匹の蚊を退治。見渡す限りでは、蚊はおらず快適な空間を手に入れたことに、二人はガッツポーズをし、安らかに眠ることにした。が、程なくして小指が痒い。ひたすら痒い。隣を見てみると同じようにしろさんも小指と頬を痒そうにしていた。「ただっち、まだ蚊がおるぞ！」の掛け声で、第二次人蚊大戦の

幕を下ろされた。午前 3 時の出来事であった。眠い目を擦りながらも、1 時間ほど戦いは続いた。
案の定、次の日は二人とも寝坊をした…。

多田拓晃

9 月 5 日（1 日目）

【Schedule】

起床・朝食→両替所→ハサヌディン大学→交流・ゲーム→キャンパスツアー→日本文化紹介（縁日）→お別れ→夕食→ホテル帰宅→就寝

1 日目は、朝 8 時にホテルを出発し、バスでハサヌディン大学に向かった。バスの中では、マルセルさんが街中のいろいろな建物や物について説明してくれた。三十分ほどで大学に到着し、待っていてくれたハサヌディン大学の日本語学科の学生達と顔を合わせた。まず初めに全員で円になり一人ずつ簡単な自己紹介をした。そして数人の女の子がインドネシアの楽器を使って何曲か披露してくれ、またインドネシアの踊りも見せてくれた。ハサヌディン大学の皆さんがどういう気持ちで私達との交流してくれているのか分からなかったから、歓迎されているように思えて感激した。それから三チームに分かれてインドネシアのゲームをした。私がしたゲームは T 字型に結ばれた紐の下にえんぴつがついていて、その紐をお腹に巻き、お尻の方向にぶら下がったえんぴつを床に置かれているペットボトルの口に入れる。一番早く入れることができた人が勝ち。というものであった。みんなでワイワイできて、大変盛り上がるゲームであった。

次に、六人ほどのグループに分かれて、キャンパスツアーに連れて行ってもらった。ハサヌディン大学はとても広く、また、たくさんの学生がいた。私は同じグループの中でも、特にインドラさんという名前の男の方に大学内のいろいろなことを教えてもらった。インドラさんは日本の漫画やアニメ、音楽のことにもとても詳しく、とても話がはずんで楽しかった。インドラさんに限らず、同じグループのみんなが、一生懸命日本語で私達に色々な話をしようとしてくれて、心が打たれた。それに、大学内を歩いていると、何人かの学生が日本語で「こんにちわ」と挨拶してくれることがあった。それは面白く、嬉しい光景であった。

キャンパスツアーのあとは、また全員集合し、私達が準備してきた文化紹介の時間だ。私は輪投げの担当だったのだが、見た目が地味なのか、初めはあまり学生が来てくれなかったのだが、この文化紹介の時間から交流の一年生が来てくれて、ハマる学生はハマる、といったかんじで盛り上がっていった。一年生が本当に明るく無邪気で可愛く、輪を取り合って楽しそうに輪投げをしてくれるみんなを見ているだけですごく癒され、私も楽しかった。一人の一年生の女の子が「絶対に日本に行く！待ってて！」と笑顔で言ってくれて、外国の人に日本が

愛されているのかなあ、と思えて嬉しくなった。文化紹介の後、自然に写真撮影の時間になった。明るく無邪気な一年生が少しの時間で大好きになった私は、もうすぐお別れなのだ、と思うと悲しくなりながらも、沢山のひとと写真を撮った。一年生と名残惜しくもお別れしてから、改めて上級生だけでも全員で写真を撮った。上級生のみんなとは、また明日も会えるので、笑顔でさよならをした。バスに乗ってホテルに戻り、少し自由時間をとってから夕食にでかけた。今日の夕食もとてもおいしかった。インドネシアの料理は本当に日本人の口に合うと思う。ホテルに戻り一日目は終了。

海外の学生と交流するという貴重な体験だったことに加えて、本当に楽しかったし、ハサヌディン大学の日本語学科の皆が一日で大好きになった。一日目でこんなに楽しいのだから、明日はどんなことがあるのだろう、どれだけ楽しいのだろう。そんな風に思いながら眠りについた。

宮城奈苗

9月6日（2日目）

【Schedule】

起床・朝食→グループ観光（ソンバオプ要塞）→昼食→ロッテルダム要塞→ソンバオプ通りで買い物→Sunsetを見ながらロサリビーチでお別れ→夕食→就寝

今日はハサヌディン大学の学生との交流2日目です。まず朝9時にホテルに集合しインドネシア人3人×日本人3人のグループに分かれてペテペテに乗ってソンバオプ要塞に向かいました。ペテペテとは3,000ルピアで目的地まで連れて行ってくれる乗り合いワゴンみたいなものです。皆でぎゅうぎゅうに座ってもものすごい揺れて楽しかったです。要塞ではトンコナンを初めとする伝統的な家屋を見学しました。日本人の女子は伝統的な衣装を着させてもらいました。男の子も衣装の着方を知っていることにびっくりしました。

それから再びペテペテに乗ってお昼ご飯の場所へ移動しました。ここではチョトマカッサルというカレーのような味のお肉のスープに餅米を入れて食べる伝統料理を食べました。ハエの多さに気が気じゃなかったですが料理は絶品でした。インドネシア人の男の子は途中モスクへお祈りに行きました。

そこからペテペテに乗りロッテルダム要塞へ向かいました。そこは博物館のような場所でグループに分かれて回りました。インドネシアの伝統的な衣装や婚礼道具などは色鮮やかなものが多く見ていてとても楽しかったです。遠足で来ていた小学生のキラキラした笑顔が1番印象に残っています。そこから歩いてお土産街へ行きぶらぶらしました。シルバーの製品やサロンなどの布製品が多くありました。いろんなお菓子を食べ歩きしました。全体的にばさばさした

ものが多く口の中の水分持っていけました（笑）17時に夕日が綺麗なロサリ海岸に集合しました。そこでインドネシア人と日本人がそれぞれ1列に並びお別れの式をしました。2日間でここまで仲が深まるとは思っていませんでした。日本に来た時は会おうと約束しました。すごく寂しくて別れが惜しくてなかなか離れることができませんでした。

人との出会いの大切さを感じた1日でした。Ex.2日目にしてとても充実した1日を過ごすことができました。

迫萌美

9月7日（3日目）

【Schedule】

起床→ホテル発バスで移動→parepreで昼食→合計約8時間でサダン村に到着→歓迎の舞・心の友→夕食→就寝

とうとうタナトラジャに向けて出発する日がやってきた。ハサヌディン大学のみんななどの思い出がつまったマカッサルの地をしばらく離れることへの名残惜しさとトラジャ族ってどんな民族なんだろうというわくわくな気持ちで朝を迎える。出発の時間が早かったにもかかわらず寝坊者ゼロで出発進行～★乗り物酔いが心配だった私も出発するとともに始まったマルセルさんのガイドでそんな心配は吹き飛んだ。バスの中では寝ている人もいれば話している人もいてみんなそれぞれ自由に過ごす。2時間ほどバスを走らせるとブギス族が住む地域にやってきた。驚いたのはブギス族が住む家！多くの家の屋根の先端に牛の角のようなものがついていた！ブギス族は自分の仕事を屋根で表現するのだとマルセルさんが解説してくれた。いろいろな民族が住んでいるのだと改めて実感した瞬間だった。そして一眠りすると喫茶店のようなところでちょっぴり休憩。ココナッツと黒砂糖が入っている黒色と白色のおもちのようなものを頂いた。黒色も白色もとってもおいしかったけど、どちらからといえば私は白色派★そしてバスはどんどん進んでいく。マカッサルを出発して4時間ほどでparepareという町にある海がきれいなレストランに到着！景色は最高だし料理はおいしいしトイレはきれいだし素敵なすてきなレストランだった。マカッサルについてからおいしいものばかり食べて幸せな気分～。またバスはだんだんと山道を進んでいく。一眠りして目を覚ますとまたまた休憩スポットに到着。店の中に入った瞬間、今まで見たことのないような絶景が目の前に広がっていた。そこはLakawang丘が一望できるカフェだった。優雅に紅茶とバナナチップスを頂く。バナナチップスは日本にあるものより厚切りでとってもおいしかった。そしてバスはだんだんとタナトラジャ村に近づく。それにしても辺りはだんだんと暗くなってきて山道も陰しくなっているのに運転手さんの運転がすごく驚いた。そしてトンコナンが見えてきた。教会も見えてきた。ついに出発して

から約8時間でサダン村に到着！！運転手さんに感謝★夜遅かったのに村の方大勢で歓迎してくれた。子どもが笑顔で手を振ってくれたのがうれしかった。歓迎の踊りを披露してくれ、私たちはバスの中でリピートした「心の友」を歌う。ロズさんと一緒に歌ってくれて国境を超える音楽の力で心を通わせることができたように感じた。そしてサダン村での初めての夜ごはん。とってもおいしかった！その日はトンコナン組とホームステイ組にわかれて寝ることに。トンコナンはとっても快適★移動で大変な1日になると思っていたけどバスからいろいろな景色を眺め、無事にサダン村の到着できて素敵な1日だった！

ト部紋子

9月8日（4日目）

【Schedule】

起床→朝食→孤児院訪問→SHANGALLA 王族壁の墓→洞窟の墓→昼食@田んぼの真ん中のレストラン→LEMO 村→サダン村帰宅→夕食・就寝

トラジャでの活動初日

昨晚 SADDAN 村に到着した時には暗くて見えなかったが、村の風景の中に自然とトンコナン（舟形の伝統家屋）があることに感動した。また、村にはサロンを売る店が数軒あり、女性たちがそこで機織りをしている。これらの光景を目にしてトラジャに来たことを改めて実感した。日本には無い、爽やかな朝だ。

バスに乗り、まず孤児院を訪問した。幼稚園児～高校生くらいの様々な年齢の子どもたちが、インドネシア・トラジャ・マカッサルの歌を歌い、楽器を演奏し、ダンスも披露してくれた。私たちを歓迎してくれていて嬉しかった。最後には皆で輪になってダンスを踊っていた。

私たちからは日本の文化紹介として折り紙・シャボン玉・ボール・大なわとびを用意した。子どもたちと言語的なコミュニケーションを取ることは出来なかったが、日本の遊びに興味を示し、楽しそうにされていて、来て良かったと思った。お別れの時には「さようなら」の歌を歌ってくれた。

その後はトラジャ観光へ

最初は SHANGALLA 王族の壁の墓。初めて目の当りにするトラジャの墓。そのスケールに圧倒された。壁に四角く穴があげられていて、その中にタウタウと呼ばれる死者をかたどった人形がたくさん並べられている。マルセルさんによると、人形は石を彫って作られているそうだ。お墓の前にはサリンアンという小さいトンコナン型の物が置かれている。これは日本でいう棺であり、死者を運んだ後は触ることが出来ないのでお墓の前に放置されるそうだ。

次に、壁の墓から歩いて洞窟の墓へ。ここには手の届く場所にたくさんの人骨があったが、人

骨は現地人でも触ることの出来ないものなので触れないように気をつけた。また、洞窟の上の方にはタウタウが並んでいた。ここは手の届かない場所にあるので大丈夫だが、他のお墓では外国人に盗まれることがあり、鍵がかけられているようだ。

そして、昼食は田んぼの景色を見渡せるレストラン。料理のなかに黒い豚肉があったのだが、この色は香辛料の色らしい。パンギの葉から作られていて、トラジャの伝統的な香辛料だと教えてもらった。

そしてこの日最後には LEMO 村へ。ここには王族の崖の墓があった。タウタウの数の多さで有名だそうだ。観光スポットらしくお墓の写真入りの看板が建てられていたり、土産物屋もあった。

こうして初めてのトラジャの景色に圧倒され、4 日目が終わった。

倉岡歩美

9 月 9 日 (5 日目)

【Schedule】

起床→朝食→市場→お葬式参列→コーヒ一直売所→市内のカフェで遅めの昼食→ケテケス村→サダン村帰宅→川風呂→夕食→星を眺める→就寝

今朝も、鶏の鳴き声で目が覚めた。日本では毎日目覚まし時計に起こされてしぶしぶ起きる私だが、鶏に起こされるのはなぜか目覚めが良いし心地よい。これが人間本来の目覚めなのかなどと思いつつ朝食を食べ、出発！トラジャ圏の中心地にある市場へ行った。野菜から魚、その他雑貨まで全てが揃っており、とても賑やかだった。日本には無い野菜を見たり果物を食べさせてもらったりと面白かった。ただ、特に魚売り場では臭いが強烈だった。その後、今日はトラジャ Ex.の醍醐味であるお葬式が行われるということでお葬式が行われる村へ向かった。村に着くやいなや、豚の断末魔が聞こえてきた。そして、その豚はその場で解体されていた。トラジャのお葬式には、死後の世界に死者を導くために水牛を、死者の食糧とするために豚を生贄として殺すという独特な文化がある。また、その水牛や豚を買うためのお金を用意するために死者が出るとすぐにお葬式が行われるのではなく、数年～数十年後に行われ、お葬式が行われるまでは死者は「病人」と呼ばれ家族と寝食を共にするというのも特徴的である。また、お葬式も 1 週間程行われる。今回のお葬式は、王族の 2 人のお葬式ということでたくさんの豚や水牛がいた。生贄にする豚や水牛の数が多い方が死者への思いが強いと言われているらしいが、そこに権威的なものを感じて少し複雑な気持ちになった。「死ぬために生きる」と言われているトラジャ圏の人々は死後の世界を信じ、盛大なお葬式を行う。死後の世界を信じ、その死後の世界に行くために動物達が犠牲になる。人間のエゴイズムな一面が垣間見えたような気がした。

その後はケテケス村にお墓を見学しに行った。トラジャ圏の人々は、お葬式と同様お墓もとても大事にする。王族のお墓の前には、死者の生前の姿をかたどった人形が置かれていた。また、お墓には煙草の燃え滓や飴などが置いてあった。夢枕に死者が立ち、煙草などが欲しいと言われると家族が置きに来るらしい。日本よりも死者との距離が近い印象を受けた。サダン村に帰ってからは川でお風呂に入ったり、みんなで縄跳びをしたり歌を歌ったりと楽しい時間を過ごした。地面に寝転がって眺める満点の星空は本当に最高だった。村の人たちも寝静まった後、聞こえるのは虫の声だけ。地平線まで広がる星空。圧巻であった。久しぶりに無心になれた気がした。お葬式やお墓、私には理解できない文化を体験したが、「死んだらそれで終わり」と考えるよりも、死後の世界を信じる方が生きることの意味づけができるような気がした。そして、どう生きることが幸せにつながるのか考えさせられた一日であった。

田中楓梨

9月10日（6日目）

【Schedule】

起床・朝食→小学校訪問→パウア村→昼食・行進行列→ロンダ村（洞窟のお墓）→サダン村帰宅→夕食→バルバラさんとの別れ→就寝

初トンコナン。あまりにも寒くて5時起床。日本の11月くらいの寒さだったかな。腕に大量の鳥肌を立たせながら、川で洗顔した。スッキリ^^サダン村では、朝食前と夕食前に必ず軽食を作ってください。それも、おいしい物ばかりなのだ。私たちの為に何時に起きて作ってくださったのだろう。本当に感謝の気持ちでいっぱいだ。そんな気持ちで今日も、朝食前の間食とおいしい朝食を頂いた。

午前中は、サダン村近くの小学校訪問。小学校には、約30~40人くらいの子どもたちがいた。私たちは、それぞれにシャボン玉・大縄跳び・サッカー・おりがみ・追いかっこなどして遊んだ。私は、おりがみ遊びをした。終始、手裏剣づくりに徹していたように思う。「Star,Star」と言われ、2時間の滞在時間で20個の手裏剣は作っただろう。隣でずっと手裏剣を求めている男の子がいた。手裏剣ボーイと名付けた。2時間で8個ぐらいの手裏剣を獲得した模様だった。また、鼻水カピカピの男の子がいた。私は、自分の保育所時代を思い出した。鼻水カピカピな男の子はどこの学校にも1人はいただろう。懐かしさと愛しさを感じた。そして、私は、歩美ちゃんと6歳ぐらいのある女の子に興味を持った。その女の子は人見知りで、なかなか自分の思いを表現できないようなのだ。2時間隣にいたが、あまり心を開いてもらえないまま、お別れの時間になった。バスに戻りながらも、その子のことがすごく気にかかっていた。バスに乗り、外を見ると子どもたちが手を振ってくれていた。その中に、あの女の子もいたのだ。一生懸命

に手を振ってくれていた。本当に嬉しかった。心が温まる出来事だった。あまり言葉は通じないけれど、笑顔が溢れた 2 時間だった。子ども達からたくさんの笑顔とパワーをもらった。

私たちはバスに乗り、パウア村に向かった。この村には、今までの見た中で最高数の水牛の角とあごの骨が飾られたトンコナンがあった。権力がすごい人だったのかーと思って見ていたが、実は借金の数らしい。昔は、飾ってある水牛の角は返していない水牛の数、つまりは借金の量を表していたという。角の裏には送ってくれた人の名前が記載してあり、その家の方が亡くなった際に水牛を送る仕組みになっているそうだ。また、パウア村での 1 番の思い出は、押し売りが凄いいということである。村の女性が自分の店の商品を買って貰おうと、押し売りをしてくるのである。私も手織りのショールを見ていて、結局買ってしまった。しかし、150,000Rp から 114,000Rp に値段交渉できたし、可愛いのでいい買い物だった。しろさんはピカピカの金の水牛を買ってはった。毎日、頭をなでるそうだ。

昼食は街の中華系のお店に行った。道中、小中学生の行進行列があった。行進をする小中学生は化粧をしているせいか、大人びている人が多かった。インドネシアの学校の制服はカラフルで可愛いものばかりだった。昼食も美味しく頂いた。

次は、洞窟のお墓があるロンダ村に向かった。洞窟は鍾乳洞のようで、異様な雰囲気のある場所だった。至る所に、棺桶や亡くなった人の生前の生活用品があり、何とも言えない気持ちになった。奥には、昔、駆け落ちをしたという男女の頭蓋骨が並べてあった。駆け落ちをしてこの洞窟で自殺をしたというのだ。何とも言えない気持ち、再びである。トラジャ圏に来てから、たくさんのお墓を訪問させてもらったが、日本ではお墓観光ということはある得ないことである。やはり、日本人の考え方とは違うのだろうと思う。死者との距離が近いトラジャ族。貴重な経験をさせてもらっている毎日である。

そして今日は、バルバラさんとお別れの日だった。急なお別れになってしまったが、いつも和やかな雰囲気にしてくれるバルバラさんが大好きだった。明日からはバルバラさんに会えないのが悲しいな。バルバラさん、ありがとうございました。

上田里奈

9 月 11 日 (7 日目)

【Schedule】

起床・朝食→フェアウェルパーティーの買い出し→機織り・田植え→豚の解体→フェアウェルパーティー準備→フェアウェルパーティー→就寝

7 日目。そんな今日はトラジャ Ex.感動のフィナーレであるフェアウェルパーティーの日である。そんな 7 日目の朝、僕たちは今晚あるフェアウェルパーティーでサダン村の人にお味噌汁とおに

ざりを振る舞うため市場に僕達一行は向かった。がしかし、朝から大ピンチ。向かう途中のバスで僕は激しい尿意に襲われた。そのせいで素晴らしいトラジャの景色に全く集中できない。

僕たちがホームステイしているサダン村の住人はみなさんとても親切で、僕たちが朝起きてふとん散らかしっぱなしのまま、トンコナンを出発し観光に行くが、帰ってくると毎回ベッドメイキングされていたり村に帰るたびに、おやつ・コーヒー・紅茶（サダン村ではコーヒーのことをコピと言います。ちょっと可愛い）をもてなしてくれたりした。僕は毎度サダン村の紅茶が気に入っていたのでがぶ飲みしていた。

紅茶の利尿作用は本当に凄い。トラジャに向かう行きのバスで僕は 1 回トイレのためにバスを止めているので 2 度目のバスを停車させてのトイレチャンスはなかった。サダン村では 1 日 5 回トイレをしていた。

結局、市場でトイレを探したのだが市場にはなかった！なので少し外れにあるガソリンスタンドまで歩く。そのガソリンスタンドで面白かったのは、しろさんがイスラムのモスクに土足で入って、現地の人に『REALLYYYYYYYYYY??????????』と驚かれたところである。まさにジャパニーズクレイジー。

話は飛んでフェアウェルパーティ。サダンの人が生きたままの豚を僕たちに振る舞うため殺した。華麗な綺麗な鮮血、それも一突で。チャッピーさんが言った一言がとても印象に残っている。

『美しいね、死ぬって・・・』たしかにそう思った。

フェアウェルパーティは上手いこと成功を収め、良い 1 日だった。

近藤優哉

9 月 12 日（8 日目）

【Schedule】

起床・朝食→サダン村にお別れ→バスで移動→parepare のカフェ→遅めの昼食→夕食→ホテル着・ハサスディン大学の学生からの手紙を受け取る→就寝

7 時からの朝食のため、6 時半に起きてトンコナンから川に行き歯磨き、洗顔。やはり、朝、川で顔を洗うのはとても気持ちがいい。海外のホテルの水より川の水のほうが日本人にあっているのではないだろうか。5 時半に起きて少し寒い川で髪や体を洗った人もいたようだった。みんなで遊んだり、お風呂に入ったり、洗濯したり、と生活に欠かせないくらい本当にお世話になった。きれいな川がすぐ近くを流れていてよかったと川に感謝しつつ、こうして朝、顔を洗いに川に来るのも最後だと思うととても悲しくなった。「スラマッ パギ」と慣れてきた村の人の朝の挨拶も今日で最後。朝食は毎朝、7 時半と決まっていた。しかし、今日は 8 時に出発の

ため 7 時から朝食の予定だったが、キラキラタイムなのか、村の人にうまく伝わっていなかったためなのか、今日も 7 時半から朝食をとった。毎日、食べることのできないほどの量のたくさんのおいしい料理やおやつを作ってくれた村の人には本当に感謝でいっぱいだった。インドネシアの中でサダン村の料理が一番好きになった。朝食を済ませるとすぐに出発の準備。たくさんの村の人と握手を交わし、「クッレ スマガ」とトラジャ語で精一杯の感謝の気持ちを伝えた。いつかまた、サダン村に戻ってこられることを願いながら、村長さんや村の人に見送られ村を出発した。食事、ホームステイ、トンコナン、田植え、機織り、川、星空、かわいい子供達、歌、ダンス、笑顔。サダン村で過ごした 5 日間は毎日、何もかもが初めてで、数えきれないほど多くのものを与えてもらった。サダン村でのことを思い巡らせつつ、マカッサルに向けて約 9 時間のドライブが始まった。8 時半に村を出発し、12 時前、5 日前サダン村に向かう途中によった、Lakawang のカフェで休憩。カフェに着くまでのバスの中ではみんな疲れていたようで、重なり合うようにしてぐっすり寝ていた。カフェでは温かいコーヒー、紅茶、この Ex. でみんなの好物となったであろうバナナチップスを食べ、壮大な景色を眺めながらしばらく休憩した。約 30 分の休憩を終え、再びバスでの移動。寝て過ごす人、音楽を聴く人、それぞれに時間を過ごした。午後 3 時前、パレパレ湾の近くでの昼食休憩。マルセルさんは、中国人のレストランと言われていたが、中華レストランだろうか。魚やエビなどサダン村では少なかった魚介類が並んだ。インドネシアでの食事は本当に日本人の口に合い、どこで何を食べても美味しく、食べ過ぎてしまう。一時間の昼食休憩が終わり、再びバスに戻った。30 分くらいですぐにトイレ休憩があったが、辺りはすでに薄暗くなっていた。バスが出発すると、寝て元気になったのかみんなで歌を歌って盛り上がった。Ex. 最終日にしてバスの中での一番の盛り上がりだった。休憩から一時間くらいでホテルの近くのレストランに到着。みんなで食べる最後の夕食にはやはり、ナシゴレン、ミーゴレン、オタオタ、八宝菜風のものなどおなじみのインドネシア料理が並んだ。ナシゴレンやミーゴレンなどいつもと言っていいほど毎回の食事に出てくるが、どれも少しずつ味つけが違っていてそれぞれ美味しかった。ホテルに戻ると、なんとハサヌディン大学の学生からの手紙が届いていた。一人ひとりに一言ひとこと、一生懸命考えて日本語で書いてくれたのが伝わり本当に嬉しかった。Ex. は今日で終了してしまうけれど、インドネシアとの繋がりは始まったばかりで、もっともっとインドネシアことを知りたくなった。マルセルさん、バーバラさん、アンセルさん、運転手さん、ハサヌディン大学の学生、高校生、サダン村の人達、小学校・孤児院の子供達、トラジャ Ex.03 でお世話になった全ての人に感謝したい。また、この 22 人の素敵な仲間ができたことを誇りに思う。

登森知奈美

6、インドネシア・トラジャ Ex. 03 持ち物リスト

必ず必要なもの

☐ お金

*参加費 635 米ドル(これから変わる可能性あり。)

*ビザ代 25 米ドル

【超注意！】 ★参加費、ビザ代ともに、おつりが出ないように持ってきてください。

*ポケットマネー

【金額】1 万円あれば多分足ります。

☐ パスポート

☐ パスポートのコピー

★インドネシアでは、外国人はパスポートかそのコピーを常時携帯していなければならないという決まりがあります！

☐ トラジャ Ex. 03 ポロシャツ

☐ 長袖の服

★トラジャの朝晩は非常に冷える！（トンコナンで寝る際はきっちりと防寒する必要があります）

☐ ズボン

★女性は短くてもひざ上。露出が少ないように。ロングスカートはOK！

☐ 下着

★多めに！

☐ ノート

☐ 筆記用具

☐ サンダル OR クロックス

★トラジャでは地面がぬかるんでいる場所が多い

☐ タオル

☐ 洗面用具

*シャンプー

* リンス

* ボディーソープ

* 洗顔料

* 歯磨きセット

☐ 虫対策用品

* かゆみどめ

* 虫除けスプレー

絶対!!蚊に刺されることにより、デング熱にかかることも少なくないそう!!

★01 では100 箇所以上かまれた人もいるらしいです!!

☐ ホテル予約(ビフォア・アフター)のバウチャーを印刷したもの

☐ e-チケット を印刷したもの

☐ 携帯電話

☐ 携帯電話充電器

☐ 電気プラグ(インドネシアは電圧 220V、周波数 50Hz、丸ピン 2 本足の C タイプ)

☐ 黒の上下服★お葬式参列用

★03 はトラジャ T シャツに黒字のズボン

☐ 移動用バッグ

☐ 懐中電灯

★トラジャ地方にはたまに停電があるため

☐ 腹痛止め

☐ ホームステイ先へのお土産

☐ マルセルさんや村長さんなどお世話になった人への菓子折り

☐ 文化紹介に必要な道具

☐ トイレットペーパーOR テッシュペーパーとスーパーの袋

★向こう(特にタナトラジャのホームステイ先)では、ティッシュペーパーは一応ある。しかし現地のものであるため抵抗を感じる方は、必ず、ペーパーと袋を持っていくようにしましょう。

持っていった方がいいもの

☐ 日焼け止め

☐ 汗拭きシート類

☐ 帽子

★日中のインドネシアは暑い！

☐ 時計

☐ カメラ

☐ カメラ充電器

☐ コンタクト・洗浄液(コンタクト使用者)

☐ 生理用品(女子)

☐ 絆創膏

☐ 風邪薬

☐ 酔い止め

★マカッサルからタナトラジャまでの道のりは、かなりガタガタです！車酔いを少しでも経験したことがある人は持ってきてください。

☐ ファブリーズ

☐ 水着

★川でお風呂になる可能性があるそうなので、女の子は特に。

☐ 手ピカジェル OR 消毒液

☐ カイロ

★おなかを壊した時や、トンコナンでの夜に大活躍します。

7、編集後記

とりあえず、報告書が一通り完成してほっとしている。日本に帰国後、この報告書の提出期限迄9日しかない。このような状況の置かれた為、報告書係を初め、03メンバーには多大な迷惑をかけたと思う。申し訳ない。しかし、この03メンバー誰1人として嫌な顔をせずに引き受けてくれたことに私は感謝している。ありがとう。

さて、インドネシア・トラジャ Ex. 03 が大きなトラブルもなく無事に終わることが出来た。この Ex. 期間中に 03 メンバーは様々なことを見て、聞いて、考えてきた。各々の思いのその全部とはいわないが大部分がこの報告書の中には詰まっていると私は感じている。読者である皆様もこの報告書を見て少しでも考えて、興味を持ってもらえるきっかけになれば私共、報告書係として大変ありがたいことである。

最後に、カンブンエクスペディションズの皆様、ハサヌディン大学日本語学科の皆様、Sa'dan 村 To' barana の皆様、そして 03 メンバーありがとうございます。このトラジャ Ex. が今後も素晴らしいプログラムとして I. S. A. に存在し続けることを祈り、筆を置かしていただく。

インドネシア・トラジャ Ex. 03 報告書係

奥出 雄太

インドネシア・トラジャEx.03 報告書

編集：奥出雄太、和田真由美、塩崎柚香、上田里奈、北出あさ美

発行責任者：麓 磨紀子

発行元：日本国際学生協会
